～音楽が紡ぐ“縁”～

HIROSHIMA SYMPHONY ORCHESTRA

広島交響楽団第394回プレミアム定期演奏会 THE 394TH PREMIUM SUBSCRIPTION CONCERT

ヴァイオリン
サラ・チャン
Violin
Sarah Chang

指揮
リオ・クオクマン
Conductor
Lio Kuokman

2019.10.11（金）
18：45開演〔17：45開場〕
Fri Oct 11, 2019 Start 18:45 [Open 17:45]

広島文化学園HBGホール
広島市中区加古町3−3
Hiroshima Bunka Gakuen HBG Hall

シベリウス：**ヴァイオリン協奏曲ニ短調**
Sibelius：Violin Concerto in D minor Op.47

ラフマニノフ：**交響曲第2番ホ短調**
Rachmaninov：Symphony No.2 in E minor Op.27

Concertmaster：佐久間 聡一 Soichi Sakuma

チケット（税込／全席指定）
S席6,200円・A席5,700円・B席5,200円（学生券1,500円）
※学生席は小学生以上、25歳以下の学生が対象。要学生証。（広響事務局のみで取り扱い）
チケット発売日
一般プレイガイド 2019年8月11日（日）／広響事務局 2019年8月19日（月）

プレイガイド
エディオン広島本店・福屋八丁堀本店プレイガイド・福屋広島駅前店チケットサロン
アルパーク天満屋チケットサロン・広島アーツ楽器・ヤマハミュージック広島店管弦打楽器売場
ローソンチケット（Lコード:62522）・チケットぴあ（Pコード:142-486）・中国新聞社読者広報部
中国新聞販売所（取り寄せ）・広響事務局

主　催／公益社団法人広島交響楽協会、中国新聞社
助　成／文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会
プレミアム協賛／Energia 中国電力
後　援／広島県、広島市、広島市教育委員会、NHK広島放送局、中国放送、テレビ新広島、
広島テレビ、広島ホームテレビ、広島エフエム放送、月刊ウェンディ出版局

※やむを得ぬ事情により、出演者・曲目等を変更する場合がございます。
※就学前のお子さまのご入場はご遠慮ください。
※開演時間に遅れられた場合、入場に制限がございます。

広響公式ホームページ▶
HP：http://hirokyo.or.jp

beyond 2020

お問い合わせ ▶ 広響事務局 TEL：082-532-3080

アジアから世界へ、音楽で紡ぐ一夜の「縁」

世界的アーティストを迎えて開催する「プレミアム定期」、8歳でメータやムーティと共演するなど当時のクラシック界を震撼させた恐るべき神童と謳われた、サラ・チャンの登場です。デビュー以来30年に渡り、世界の楽壇に君臨し続け、神童から女王へと進化を遂げた現在のサラ・チャンの演奏を生で聴けるまたとない機会。貫禄のシベリウスはまさに必聴です。指揮のリオ・クオクマンはマカオ出身でフィラデルフィア管弦楽団の副指揮者を務めたことから指揮者としての才能を開花、近年の活躍には目を見張るものがあります。その端正な容姿からは想像がつかない情熱を秘めた指揮がゲルギエフの目に止まり、マリインスキー劇場へのデビューを飾りました。ロシア音楽から真の姿を呼び覚ますリオ・クオクマンの指揮にも是非ご期待ください。

指揮／リオ・クオクマン
Conductor ／ Lio Kuokman

マカオ生まれ。香港演芸学院を卒業後、ジュリアード音楽院、カーティス音楽院、ニューイングランド音楽院で学び、オットー=ヴェルナー・ミュラー、ヒュー・ウルフに師事。2014年のスヴェトラーノフ国際指揮者コンクールで最高位を受賞。2015/16年シーズンまでフィラデルフィア管でヤニック・ネゼ＝セガンの副指揮を任され、現在は香港ニュー・ミュージック・アンサンブルの首席指揮者を務めている。
これまでにフィラデルフィア管、ロッテルダム・フィル、フランス国立放送フィル、デンマーク国立響、N響、都響、ソウル・フィルといった第一線のオーケストラと共演。ラ・ロックン・ダンテロン国際ピアノ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ（フランス、日本）にも定期的に出演している。今後はモスクワ・フィルへのデビューや京響との再共演を予定。
オペラにも積極的で、《愛の妙薬》、《トゥーランドット》、《リゴレット》、《カルメン》、《蝶々夫人》をはじめ、多数のプロダクションを指揮。ゲルギエフに招かれたマリインスキー劇場では、リムスキー＝コルサコフ《プスコフの娘》を指揮した。
芸術文化の発展への貢献が評価され、香港とマカオの両政府から賞や勲章を授与されている。

ヴァイオリン／サラ・チャン
Violin ／ Sarah Chang

フィラデルフィア生まれ。4歳でヴァイオリンを始め、6歳で名門ジュリアード音楽院に合格、ドロシー・ディレイに師事する。8歳でメータ指揮ニューヨーク・フィルでデビュー、同年ムーティ指揮フィラデルフィア管弦楽団と共演した。10歳でEMIクラシックスでCDデビューし、史上最年少記録である。
世界各国の主要オーケストラと共演を重ね、ウィーン・フィル、ベルリン・フィルをはじめ近年ではロンドン交響楽団、ロサンゼルス・フィル、ワシントン・ナショナル交響楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ロイヤル・フィル、チェコ・フィル、ロッテルダム・フィル、サンクトペテルブルク・フィル等と共演。この他ヨーロッパと北米各国でリサイタルを開催。室内楽でもこれまでにズッカーマン、サヴァリッシュ、ブロンフマン、アンスネス、ヨーヨー・マと共演している。
受賞歴多岐にわたっており、ドイツェ・グラモフォン「ヤングアーティストオブザイヤー」、エイヴリー・フィッシャー賞、ドイツのエコー賞レコード大賞をはじめ、2006年にはニューズウィークの「20人のトップ女性」に、また08年WEFのヤング・グローバル・リーダーに選出。11年アメリカ大使館の芸術大使任命、12年ハーバード大学による芸術賞等を受賞している。使用楽器は1717年グァルネリ・デル・ジェス。

2019.11.29（金）

広島交響楽団
第395回
定期演奏会

広島文化学園HBGホール
18：45開演（17：45開場）

交響曲の革新

交響曲の父ハイドンと、交響曲の分野に新たな可能性を示したベルリオーズ、現代を生きる我々から見ると、保守派と革新派のような印象を受けますが、実はハイドンの交響曲は常に新しさを追い求めた間違いなく「革新派」です。またハイドンと言えば、「火事」や「うかつ者」「熊」「V字」などユニークな名前がつけられていることで知られますが、近年の研究において、この第102番も本来ならば「奇跡」とつけられるはずの名作で、ロンドンでの初演を終え、ステージに現れたハイドンを一目見ようと詰め掛けた客の抜けた空席にシャンデリアが落下し、誰も怪我をしなかったことから、皆が「奇跡だ！」と言ったと伝えられています。ところがこのエピソードが間違って第96番の初演での出来事として伝えられてしまい、現在に至っています。
指揮に迎えるシルヴァン・カンブルランも読売日本交響楽団での下野の「縁」により、今回広響への初客演が決まりました。それぞれの時代における交響曲の革新を感じながらお聴きください。

ハイドン（没後210年）：交響曲第102番変ロ長調
F.J.Haydn：Symphony No.102 in B-flat minor Hob.Ⅰ:102

ベルリオーズ（没後150年）：幻想交響曲
Berlioz：Symphonie Fantastique Op.14（H.48）

指揮／シルヴァン・カンブルラン
Conductor : Sylvain Cambreling

あなただけのマイシート

2019年度
中期定期会員募集のご案内

定期全3回公演
S席／13,500円　A席／12,500円　B席／11,500円

お申し込みは広響事務局までお電話ください。（受付期間 2019年4月15日～9月12日）